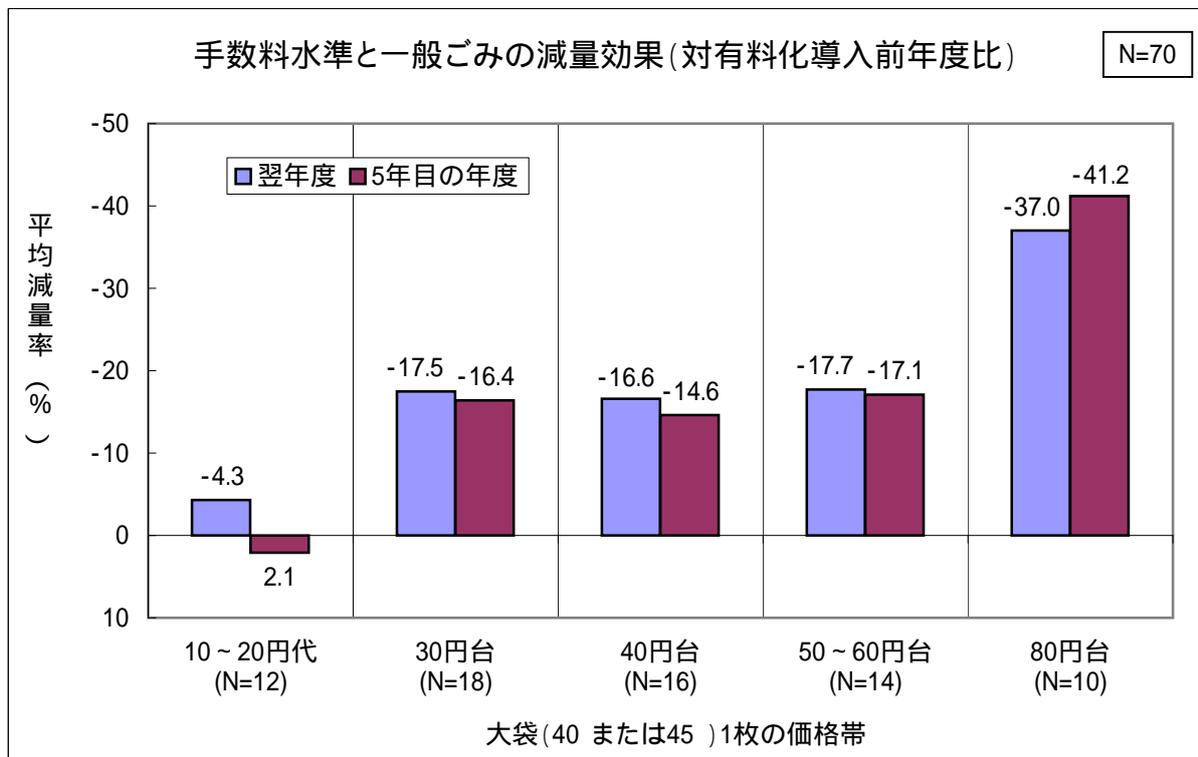


家庭ごみ有料化実施前後の資源・ごみ量 (手数料体系別に見た減量効果)

単純従量制を採用する70市について、手数料水準（通常40 または45 の大袋1枚の価格、一部の都市では30 または35 ）と一般ごみの減量効果の関係を、有料化導入の翌年度と5年目の年度についてグラフ化した。

導入翌年度については、その価格帯についても平均減量率はマイナスで、価格帯が高くなるにつれ減量率も高くなる傾向が現れている。その後、導入5年目の年度においては、10～20円台の価格帯の低い都市で2%程度増加に転じている。



従量制には、以下の3種類がある。

単純従量制・・・使用のごみ袋に応じて1枚目から手数料がかかる仕組み

超過量従量制・・・特定の期間に使える一定枚数のごみ袋を無料で配布し、その枚数を超えた段階で初めて手数料がかかる仕組み

二段階従量制・・・使用のごみ袋の1枚目から手数料がかかるが、一定枚数を超えた段階で手数料単価が引き上げられる仕組み

出典：ごみ見える化 [著：山谷修作]